

## 海へつながる私たちの暮らし ～しながわの海をとり戻そう～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年04月14日

2007年3月17日土曜日、環境情報活動センターにて、環境教養講座「海へつながる私たちの暮らし ～しながわの海をとり戻そう～」が行われました。講師は神奈川県水産技術センター 主任研究員の工藤孝浩先生。当日は、30名の受講者の方が集まり、熱心に聞き入っていました。

前半は、東京湾や品川の海のお話。後半は、工藤先生が取り組まれている環境再生の拠点・金沢八景での取り組み、アマモ場の再生事業などをお話されました。



お話の導入は品川区大井にある「大森貝塚」。貝塚から見えてくる縄文時代の人々の暮らしなどにも触れました。また東京湾と人々の暮らしを、時間軸を追って説明しました。江戸や明治のころ、品川の町の人々が海と共存しながら生き生きと生活する様子などを、当時の絵などを見ながら語りました。



東京湾の水質は徐々に悪くなり、昭和30年代にピークを迎えました。

意外なことに工藤先生が東京湾を潜り始めたころからは少しずつ東京湾は綺麗になっている、という印象をお持ちだそうです。



東京湾にはマハゼなどさまざまな種類の魚がいます。大都會の海、東京湾にあっても魚たちはたくましく生きています。一方で、外来種が生態系をこわしたり、東京湾に未処理の排水が流れ込むなど、魚たちにとってはまだまだ安心できる環境ではないようです。下水が完全な形で整備されてきたのはごく最近のことだそうです。また、海苔づくりで有名だったこの地域で海苔がつかられなくなったこと（窒素やリンを効率よく吸収してくれていた海苔がなくなった）や、漁業の衰退も東京湾の環境を悪くしている要因だと工藤先生は指摘しています。

後半は、工藤先生が取り組んでこられた金沢八景での取り組みを4つ紹介されまし

た。

- 1、平潟湾流域の市民団体のネットワーク、
- 2、ヨシ原の再生試験
- 3、潮干狩り実態調査
- 4、アマモ場の再生事業

どの活動も市民が中心となり行政に呼びかけるなど、さまざまな活動を続けていますが、とくに、アマモ場再生は、多くの人たちを取り込んでいき、地道な呼びかけや調査を続け、試行錯誤を重ねながらも、少しずつ市民や地元の子どもたちの意識が高まっていったといいます。



また、究極の環境再生として、埋立地を海に戻す、という取り組みを話されました。少し前までは誰も取り合ってくれない話でしたが、国土交通省が埋立地を掘り込んだ海水導入池の実験を進めるなど、環境に対する関心の高まりに期待していました。



講演後、「東京湾の魚は食べても大丈夫ですか？」といった食と安全性についての質問が多くありました。

また、金沢八景の海が甦っていく様子を見て、受講者の方たちは自然や環境に対する意識を持つことで、環境はよくなっていくのだということを実感しているようでした。

---

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2007年04月14日

## 沖縄・粟国島の人々に学ぶスローライフ～塩づくりに携わる人々を見つめて～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年04月14日

平成19年3月24日（土）、環境情報活動センターで、環境教養講座「沖縄・粟国島の人々に学ぶスローライフ～塩づくりに携わる人々を見つめて～」が行われました。

講師は長年、沖縄粟国島でフィールドワークを続けている、西武文理大学講師の名本光男先生です。前半は沖縄粟国島の旧暦をもとにした暮らしぶり、後半は、粟国の「塩づくり」についてお話されました。



沖縄県粟国島は、沖縄那覇市から北西へ約60キロ、那覇空港から飛行機で20分、フェリーで約2時間の場所にあります。



人口900人あまりのこの島では、旧暦に基づいて行事や生活が行われています。

ちなみに現在、私たちが使っている暦は太陽暦。太陽の運行を基準にした暦です。一方、日本でも以前に使われていた旧暦は太陽太陰暦。月と太陽の運行を両方取り入れた暦です。

沖縄粟国島では、多くの行事が旧暦によって行われていて、その数たるや1冊の本になるほど。

特に大きな行事の一つが、旧大晦日の行事「マースヤー」です。



小さな子どもも全員参加する。

粟国のある人が「マースヤー」のときに、こんな話をしたそうです。

「私たちの周りにおいて、私たちを守ってくれるものや先祖にたいして、今年もありがとうございました。来年もよろしくお祈いします、という感謝を込めておこなうのが島の行事さあ。それを子どもたちにもしっかりと理解してもらって、ずっと伝えていってもらいたい」

この話を通じて、粟国の人々が、先祖・神々・自然と共に生きていることがわかります。

つまり、旧暦にそって生きることは自然に気を配って生きていることにつながっているのかもしれない。

このように、前半では、自然や周りにある何かを大切に思いながら暮す人々の様子を話されました。

後半は粟国島の塩づくりです。

粟国は観光開発が進んでおらず海水がきれいなので塩づくりには最適な場所です。

#### ■揚げ浜式塩田での塩作りの流れ

- 海水を海から汲み上げる。
- 汲み上げた海水を塩田の砂の上に撒く。
- 塩田の砂に撒いた海水を自然に乾燥させる。
- 塩のついた砂を集める。
- 集めた砂をヌイにて海水を濾過する。
- 濾過してできた濃度の濃い塩水（かん水）を釜で炊きあげる。
- 数時間の釜炊きで水分が蒸発し、釜の中に塩とにがりが残る。
- 余分なにがりを脱水すると、ミネラル分のほどよく残った塩ができる。



（左）海水をかけて濃度を高めます。（右）学生も参加して粟国の生活文化を学んでいます。

塩づくりも、島での生活と同じように、ゆっくりと丁寧に作られていました。このような島の様子を「一周遅れの最先端-粟国島」と名本先生は表現されました。

食の安全性が繰り返し取りざたされるなかで、頑固なまでにゆっくりと作られている「粟国の塩」や粟国島に生きる人々の生き方は、今注目されつつあります。

ゆっくり生きる、自然に敬意を払い、感謝しながら生きる。こうした生き方に目を向けていくべきではないか、そうすることで環境に対する意識も高まっていくのではないかと指摘されました。

講演後は質問が相次ぎました。塩づくりはもちろんですが、こうした生活ぶりに受講者の方たちは関心を持たれていました。また、粟国出身の受講者もおられ、自分たちの文化を見つめなおすきっかけにもなったようです。

---

**カテゴリ:** 平成19年度

**投稿日:** 2007年04月14日

## 不用品を利用して「春のみつばちモビール」をつくろう

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年05月15日

2007年4月28日土曜日、環境情報活動センターにて、環境講座「春のみつばちモビールをつくろう」が行われました。

梱包資材として使われるクッション材や、不用になったボタンなどを用いて、可愛いミツバチのモビールを作りました。

まず、クッション材に両面テープを貼り、毛糸をグルグル巻いてミツバチのしましま模様を作ります。針金を刺して鼻とおしりの針を作り、葉っぱの羽も差し込んでボンドで止めます。ペンで目を書けばハチさんの完成です。



次はドームを作ります。ボタンやビーズなどを糸に通し、それを針金のドームに巻きつけて縛ります。きれいに飾り付けできたかな？

針に糸を通し、ハチのお腹に針を刺して吊るすための糸を通します。裁縫みたいだね。



※針の扱いには充分気をつけてください。

ドームにも糸を通して吊るします。



ドームの上に風車をつけると風でクルクル回って面白いよ。  
ハチから出ている糸とドームをクリップでつなげて、ハチを吊るします。糸の長さをバラバラにするのがポイント！  
これで完成です！



おうちに飾って可愛がってあげてね！

---

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2007年05月15日

## 花育!

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年05月27日

平成19年5月27日エコフェスティバル当日、環境情報活動センターにて、環境講座「花育！自然に親しむ心と感性を育てよう」が行われました。

「花育」とは、単なるフラワーアレンジメントではありません。今回、講座をお願いした株式会社フローレ21さんは、こう述べています。

「庭がある家庭が少なくなり、庭で花を育てたり、食卓に花を飾るという習慣が減少してきました。花は、五感でいう、視覚・嗅覚・触覚を使うことができます。花に触れる・体験することで、子ども達は大自然や芸術からの感動・感激を満たすことができるのではないのでしょうか。「花育」を通して、子ども達に命の大切さ・喜びなど、豊かな心を育てることが大切だと私たちは考えます。」

セミナールームにはたくさんの花が並べられて、さながらお花屋さんの様子を呈しています。

講師は高杉揚子先生です。



まずはペットボトルで花びんを作ります。

◆ペットボトルの上の方をカッターで切ります。ペットボトルの端は手を切ってしまう恐れがあるので、ビニールテープで保護をします。好きな色のテープを巻いてワンポイントにします。ペットボトルの飲み口を逆さまに差込み、活ける場所を作ります。

◆千枚通しで左右に穴を開けて、リボンを通して取っ手をつけます。この取っ手はキレイなだけでなく、飾るときや持ち帰る際に便利です。短すぎると花が入りませんし、長すぎると不安定なので、活ける花の具合も考えて調節してください。

◆仕上げに水を入れます。あまり水を入れすぎず、3分の1程度入れてください。これはどの花びんでも共通することで、あまり水をあげすぎると、そこから腐ってしまうそう。

水の中に切花用の栄養剤（糖と消毒剤などが配合されたもの）を入れるとバクテリアの繁殖を抑えられるので更に長持ちします。

これでペットボトル花びんは完成です。

いよいよ本番！お花の説明を聞いてからペットボトル花びんに花を活けていきます。

お花屋さんではバラのトゲを抜いたり、汚い葉っぱを切って捨ててしまうのですが、今回は自然の状態を見ていただくために、あえて処理がされていません。



完成したら、活けた花の名前を書いて花束のレシピを作ります。  
みんな大満足！

- ・とても楽しくてシアワセな気持ちになりました。
  - ・自分で花を選ぶことに、子供達は大喜びでした。
- その他、たくさんの「良かった」というご意見を頂戴しました。  
早くもアンコールの声が多数です。



以下は、今回使用したお花の紹介です。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



ブプレリウム  
緑色のこんもりした花がついています。



マトカリア

蛍光色に近い、鮮やかな色ですよ。

この色は特殊な液を吸わせて染めたものなのだそうです。



あわ

ねこじゃらしみたいにフワフワして、手触りがとっても気持ちいい！

今回は小さいものと大きいものを2種類持ってきました。



なでしこ

花の形が、母の日でおなじみのカーネーションに似ているね。

お花屋さんでは、枝分かれしている花を「スプレー咲き」と呼んでいるそうです。



スカビオサ



スターチス

白、紫、黄色、オレンジ色があります。

もともとからドライフラワーのようにカサカサしています。不思議だね。

ドライフラワーにしても色が変わりません。飾った後はそのままドライフラワーにして楽しんでみてね。



ヒマワリ

これは皆も知っているよね。今回の講座に使われたものは切り花用のヒマワリなので、土に植えてあるものよりも、ずっと小さい花をつけます。切り花用のヒマワリは、枯れた後も種をつけません。

ゴッホ、モネなど、ヒマワリの印象的な名画にちなんだ名前がついた品種が多いそうです。

みんなに知られているヒマワリは一重のお花です。

こんな八重のヒマワリもあります。↓



ちょっと印象が違うでしょ？



ガーベラ

お花屋さんでは、中が白いものを「白目」、黒いものを「黒目」と呼んでいるそう

です。

お花屋さんや、結婚式のブーケを作るときなどに、「黒目じゃなくて白目を加えて～」なんて会話を聞けるかも。



バラ

これも有名ですね。花を近づけると、とても良い甘い香りがします。お花屋さんで並んでいるものはトゲを取ってありますが、今回の講座では自然のままの状態を知っていただくためにトゲがそのままになっています。刺さらないように気をつけてね。



スプレーバラ

なでこの欄で説明したとおり、枝分かれしたバラなのでスプレーバラです。真ん中の茎が切れているのは、一番最初に咲いた花（一番花）をワザと切ってしまう、そこから枝分かれさせているからです。お花さんが間違えたわけでも、枯れたわけでも無かったんですね。



アシチルベ

小さい花がいっぱい集まって咲いています。ピンク色の花もあるそうです。



ルスカス

丸葉ルスカスというタイ、東南アジアから輸入されたものです。  
イタリアにもイタリアンルスカスという品種があるそうです。



オットセフィアナ

こちら、タイ、東南アジアから輸入されたものです。

その他にもスプレー菊が用意されていました。

日本では仏花のイメージが強いと思いますが、オランダではブーケに好まれている花です。

最近ではポンポンのようなまん丸の品種も売られるようになりました。

菊に限っては、茎をハサミで切るのではなく、手でバキッと折った方が長持ちするそうです。

---

**カテゴリ :** 平成19年度

**投稿日 :** 2007年05月27日

## ベランダ畑！～庭はなくても野菜は作れる～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年07月02日

ベランダ畑！～庭はなくても野菜は作れる～

野菜・草花・ハーブを使った簡単ベランダガーデニング

6月2日土曜日、環境学習講座「ベランダ畑！～庭はなくても野菜は作れる～」が開催されました。89名という多数のご応募をいただき、急きょ会場を中小企業センターに移しての開催です。

講師は、テレビや雑誌のガーデニング分野で大活躍中の恵泉女学園大学准教授の藤田智先生。講座は、先生のお話の愉快さに、開始直後から爆笑の渦に巻き込まれ、楽しく進んでいきます。

まず、プロジェクターを使用してコンテナで野菜を作るポイントや方法などを分かりやすく説明。「へえ～」という声があちこちから聞こえてきます。



また、家庭で生ゴミから堆肥をつくる方法なども教えてくださいました。ビニール袋一枚ですべてしてしまうということで、皆さん驚きです。会場から、たくさんの質問が飛びます。

いよいよ寄せ植えの実習です。用意されたハーブ・草花・葉野菜などから好きなものを4・5種類選び、寄せ植えしてみます。



水はけ用の砂利をしいて、その上から、堆肥を混ぜた土を入れ草花を植え込んでいきます。参加者の表情は真剣そのものです。先生が中に入り、丁寧に指導して回ります。

「野菜づくりは、人づくりであり、コミュニティづくりである」と先生はおつ

しゃいます。植物は人の心の鏡であり、植物を通じてご近所の皆さんとのコミュニケーションもできる、といったことでしょうか。

こんな素敵な鉢ひとつがベランダにあるだけでも、ぐっと心豊かに過ごせそうです。



---

**カテゴリ:** 平成19年度

**投稿日:** 2007年07月02日

## 昆虫ふしぎ探検隊

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年08月05日

7月7日土曜日、林試の森公園にて、環境学習講座「昆虫ふしぎ探検隊！～林試の森から熱帯雨林が見えてくる～」を実施し、36名の方が参加しました。定員の3倍のお申込みをいただき、抽選とさせていただいた人気講座です、

講師は、NPO法人生態教育センター副理事長の藤本和典先生。藤本先生は、NHKラジオ子ども科学電話相談の解説や『フィールドガイドシリーズ17 都会の生物』（小学館）他多数の書籍を出版しており、最近ではフィールドをコスタリカまで広げて研究・自然観察をしていらっしゃいます。

ただ見るだけの自然観察ではなく、五感を駆使した「自然感察」をしようというこの講座、まずは視覚を駆使した昆虫探しゲーム、嗅覚を駆使した匂い当てゲームから始まりました。自分の五感をフル稼働させ、場も大いに盛り上がったところで、いよいよ昆虫探しに出発です。



川沿い、腐葉土を作っている囲い、橋の下の日陰、・・・先生の発見ポイントを参考に、いろいろなスポットを回り、昆虫を探します。「見つけた!」「この虫何?」子どもたちの声がかかると、その昆虫の名前から生態まで、先生の詳しい解説が入ります。



木の枝をよくよく見てみると、白い綿毛をつけた幼虫が。触ると「ぴんっ!」と飛んで子どもたちに大人気だったこの虫は、アオバハゴロモの幼虫です。



今回の講座で発見した昆虫は、アオスジアゲハ、コクサグモ、ウスバカミキリ、カナブン、コシアキトンボ、アオバハゴロモ、ウスバカゲロウの幼虫（アリジゴク）、アオドウガネ、オオヒラタシデムシ、オオシオカラトンボ、コフキコガネ、

アオスジアゲハ、クロアゲハ等。

昆虫以外にも、イシガメ、ミシシippアカミミガメ（外来種；捨ててはいけない理由が説明されました）、シジウカラなどが見られました。

最後にスタート地点に戻り、観察中に拾った枝や葉などを使って、昆虫クラフトを作成。葉や枝を使ったポストカードとイーゼル、自然素材の昆虫、昆虫採集標本（生きた昆虫の採取はせず）をつくり、お土産にします。



講座を終了しようとしたまさにその時、この夏初めてのニイニイゼミが鳴きました。

●アンケートより抜粋

・何回も林試の森公園に来ていましたが、こんなにもたくさんの生き物虫たちがいるのには驚きました。ちょっと視点を変えて見ると、色々なものが見えてくるのですね。とても楽しかったです。

・都会の中でも自然な環境があることが分かり、先生の説明があったのでより理解を深めることができました。子供達の疑問にもこころよく答えて頂いてとても良かったです。

・とてもわかりやすく、楽しかったです。学校でもやって欲しい！

---

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2007年08月05日

## 食から見える世界のしくみ

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年08月25日

8月21日、環境講座「食から見える世界のしくみ」が開催されました。講師に、国際青年NGO A SEED JAPAN 事務局長の鈴木さと子さんをお招きし、遺伝子組み換え作物と、それを原材料にした食品について学びました。講師のお話の中には、私たちが今まで知らなかったショッキングな事実もあり、会場には、しばしばどよめきが起こりました。



みなさんは遺伝子組み換え作物について、どのくらい知っていますか？

「害虫に強い作物ができる」、「収穫量が増える」、「遺伝子の組み合わせによって新しい作物ができる」、「でも安全性はちょっと心配」などなど、大体こういったイメージをお持ちではないでしょうか。安全性については、すでに多くの人が疑問を持っているようです。

では、安全性が疑問視される理由とは何なのでしょう？

また、疑問視されているにも関わらず、遺伝子組み換え作物が作られ続けているのはなぜなのでしょう？

### ・安全なの？危険なの？

まず、人体への影響についてですが、これはまだはっきりとした答えは出ていないようです。安全性を確かめるために人体実験をするわけにもいきません。私達の食卓に、安全性に問題のある遺伝子組み換え食品が紛れ込んでいたとしても、その影響がすぐに目に見える形で現われるかどうかは分かりません。それは少しずつ体に蓄積されることによって、何年後、何十年後に影響が出るかもしれません。現段階では、絶対に安全だとも、絶対に危険だとも言い切れない状況なのです。

しかし、少なくとも、十分な検証が行われていないにも関わらず、遺伝子組み換え作物が広く流通してしまっていることは事実であり、この点に消費者が不安を覚えるのは当然だと言えます。

### ・虫を殺すトウモロコシ

ここで、少し別の角度から見てみましょう。作物を栽培する過程に注目します。現在世界で栽培されている主な遺伝子組み換え作物は大豆、トウモロコシ、菜種、綿花です。そのうち多くは除草剤耐性の性質を備えています。その農地に遺伝子組み換えの種とセットで購入する除草剤をまいた場合、遺伝子組み換え作物だけが生き残り、その他の雑草はみんな枯れてしまいます。農家としては、雑草を取り除く手間が省けますが、除草剤は土壌を汚染し、残留農薬という形で人間にも影響が出る可能性があります。

また、遺伝子組み換えによって「殺虫性」のあるトウモロコシやコットン（綿）なども開発されています。「殺虫性」とは、虫がその作物を食べたら死んでしまうということです。

「殺虫性」を持つトウモロコシは食品にも使われており、コットンは綿実油などに使われています。いずれも私達が口にできる可能性のあるものです。

### ・人間だけの問題ではない

このような特性を持った作物が自然界にばら撒かれると、生態系は大きく乱れます。「殺虫性」によって害虫だけでなく益虫も減少する可能性がありますし、遺伝子組み換え種と、近縁の在来種や野生種との意図しない交雑が進んでしまう可能性もあります。こうなると、今までは考えられなかったようなスピードで生態系が変化してしまいます。環境への影響は計り知れません。

-遺伝子組み換え作物による環境破壊-

- ・ 遺伝子組み換え農業による、慣行農業や有機農業への影響
- ・ 除草剤散布で枯れない遺伝子組み換え作物によるスーパー雑草の出現
- ・ 遺伝子組み換え植物による、近縁の在来種や野生種への影響
- ・ 殺虫性のある遺伝子組み換え作物による、益虫への影響
- ・ 生物多様性への影響

#### ・ 農薬とセット販売

そして、あまり知られていませんが、とても重要な問題がもう一つあります。遺伝子組み換え作物を研究開発しているのが、除草剤などの農薬を販売している化学薬品企業であるということです。これは何を意味しているのでしょうか。

化学薬品企業は、自社の農薬に対してのみ耐性のある遺伝子組み換え作物を研究開発しています。そうすると、その作物の種子を購入し、栽培する農家は、必然的にその化学薬品企業が販売する農薬もセットで購入することになります。

さらに化学薬品企業は、開発した遺伝子組み換え作物について特許申請し利益を独占し続けています。

また、遺伝子組み換え種子は次の代で同じ性質をもたない、うまく実らないように操作されており、農家は毎年同じ企業から、種子と農薬をセットで買い続けるということになります。それによって農家の経済は農薬と種子代によって逼迫し自殺に追い込まれるケースもあるようです。

遺伝子組み換え作物は、将来の食糧危機を救う素晴らしい技術だという意見もありますが、現在その機能を持ち合わせた種子は開発されていません。地球環境を汚染する農薬とセットになって世界中に広まっているものが、はたして、純粹に将来のためになる素晴らしい技術だと言えるのでしょうか。

-遺伝子組み換え作物はなぜ作られるか-

化学薬品企業による研究開発

自社の農薬とセットで売る

- ・ Monsanto社／除草剤Roundup
- ・ Bayer CropScience社／除草剤Liberty
- ・ Syngenta社／殺虫性Bt菌
- ・ DuPont社、BASF社、Dow Chemical社

→特許を申請し、種の独占によって莫大な利益を得る

#### ・ 遺伝子組み換え作物にNO

このように、遺伝子組み換え作物は多くの問題を抱えています。では、私たち消費者が、遺伝子組み換え作物に対して、NOという意思表示をしたいと考えたら、具体的にはどうすれば良いのでしょうか。

まず考えられる意思表示は、「遺伝子組み換え作物が使われている商品を買わない」ことです。

近年、商品の原材料名の欄に『大豆（遺伝子組み換えでない）』などと書かれている商品をよく目にします。しかし、この表示を見ただけで安心しきってしまうのも良いものなのでしょうか。そして、この『（遺伝子組み換えでない）』という但し書きが登場したことから、少し考えると当然気になってくるのが、但し書きがない原材料は、全て、遺伝子組み換えの可能性のあることを意味しているのか、という問題です。

私たち消費者は、遺伝子組み換え作物が使われているかどうかの判別ができるのでしょうか。

#### ・ GMフリーを探せ

講座の後半では、受講者が6人ずつのグループに分かれ、お菓子、ドレッシング、

インスタント味噌汁などのいくつかの食品の中から、GM（遺伝子組み換え）作物が使われていないものを選び出すグループワークを行いました。  
各グループは、原材料名の表示を細部まで確認し、様々な意見を出し合い、これならば大丈夫だろうという商品の一つを選び出しました。



しかし！結果は全グループ不正解！  
それだけ判別は難しいということです。  
問題は、原材料の表示方法にあります。

#### ・ 抜け道だらけの原材料表示

現在の日本の法律では、原材料の中で多くの量を占める上位3位までの項目にのみ、遺伝子組み換えかどうかの表示義務があります。上位3位に入らない原材料ならば、たとえ遺伝子組み換えであったとしても、そのことは表示しなくてもいいことになっています。

なるほど、大豆が原材料の大半を占める豆腐の場合は、原材料の欄に『大豆（遺伝子組み換えでない）』と、はっきり書かれています。一方、ドレッシングなどにわずかに含まれる大豆は、ただの『大豆』と書かれているだけ。遺伝子組み換えの大豆なのかどうかは、消費者は判断できません。

この「上位3位まで」以外にも、表示についてはいくつも抜け道があり、原材料表示を見ただけでは、遺伝子組み換えかどうかを判別するのは、本当に難しいようです。

-遺伝子組み換えについての表示義務対象-

- ・ 原材料表示欄の3番目まで
- ・ その原材料の中で、全重量の5%以上含まれる場合
- ・ 油やしょうゆ、砂糖は表示対象外
- ・ その他、表示されない原材料  
植物油脂、乳化剤、でんぷん、デキストリン、植物性たん白、たん白加水分解物、水あめ、異性化糖、ぶどう糖、など

#### ・ こんなに違う、日本とEUの表示

原材料表示を見ても判断がつかないのだとしたら、私たち消費者は、遺伝子組み換え作物に対してNOという意思表示をするのは不可能なのでしょうか。

諦めてはいけません。原材料の表示に関して言えば、世界に目を向けてみると、たとえばEUでは、日本よりも遙かに厳しい表示義務があります。

-遺伝子組み換えについての日本とEUの表示の違い-

日本

- ・ 原材料の上位3位までが表示対象
- ・ 加工中にタンパク質やDNAが分解され、全てされる油やしょうゆなどは対象外
- ・ 「意図せざる混入の」許容値5%

EU

- ・ 「農場から食卓まで」トレーサビリティ法による原料が表示対象
- ・ 動物の飼料
- ・ 「意図せざる混

入」の許容値0.9%

#### ・ いますぐできること

日本の消費者の多くが、遺伝子組み換え食品に対する知識を持ち、EU並みの原材料表示を食品会社に求めるようになれば、将来、法律も改正されるかもしれません。そのために、今すぐできることもあります。

- ・情報の収集
- ・お店の人やNGOから
- ・暮らしの中で選択をする
- ・地元のもの、国産のもの
- ・外国のものはフェアトレードで
- ・調和した世界を目指す行動

---

一人ひとりの意識を変えていくこと、実際に行動に移すこと、社会に対してしっかりと意思表示をすること、これらが今、食の安全を守るために必要になっています。

講座終了後、受講者に書いていただいた感想からは、食の安全を守っていこうという強い意志が感じられました。最後にそれらを紹介します。

「私たちが人間として、この先安心して暮らしていくことが出来るよう、食生活を楽しめるよう、すべての企業・関係官庁の良識を、注意して見守ってゆきたい！」

「“知らない”ということは本当におそろしい！！食の崩壊が始まっていることを感じました。こういうことを一人でも多くの人に理解していただくのが大切。」

「買い物をする時、必ず商品のウラを見る。食品会社に電話をかける。この二つは以前からやっていましたが、これからもどんどん続けます。」

「加工食品をできるだけ買わない。生産者への支援を含め、ちゃんと作っている人のものは少々高くても買う。」

「日本の表示をEU並みに。署名活動or機会をとらえて意見を言う。」

「やみくもに科学の進歩を否定したくはありませんが、農薬の販売とセットの遺伝子組み換え作物には、強い反感を覚えました。自分のブログに今日知ったことを書いてみます。」

「遺伝子食品の背後にあるものがわかった。この情報を人に伝えたい。不自然に安価な食品には“？”を持つ。」

「目からウロコ。スタートラインに立った気持ち。まずできることから実行。」



---

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2007年08月25日

## キッチンからはじめるエコロジー～地球にやさしい旬の料理をつくろう！～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月02日

平成19年7月31日、8月9日、8月23日の3回、環境学習講座『キッチンからはじめるエコロジー。地球にやさしい旬の料理をつくろう！』を、きゅりあん調理講習室にて開催しました。

身近な「食」の中に、

◆買い物・・・ゴミの少ない買い物、食材の選び方、環境に配慮した容器包装

◆料理・・・省エネ料理、同時調理、皮や葉を使った料理

◆片付け・・・水の節約、水の汚れを防ぐ、生ゴミの上手な処理

など、たくさんのエコポイントがあります。楽しく調理をしながら、環境への気づきをえられる講座です。



東京ガス株式会社南部支店のご協力をいただき、環境と暮らしの関わりについての解説と、デモンストレーションが行われました。生ゴミはチラシでつくった紙箱へ捨てる、汚れた皿はボロ布で拭いてから洗う、皮付きのまま調理するなど、たくさんのポイントがあります。



次に、教わった事をその場で実践！皆で楽しく料理していきます。



初めて会った子とも料理を通じてすぐに仲よくなれたようです。

■第1回目 「何でも入れてドライカレー/エコだんごきょうだい」



冷蔵庫の余った野菜やお肉を入れて、お母さんの代わりに冷蔵庫整理をしてあげましょう！お豆腐でつくったお団子はとっても健康的。ゴマやきな粉をまぶすのがとても楽しそうでした。

■第2回目 「ツナジャガコロッケサンド/お米のブラマンジェ」



一生懸命作ったので大きなツナジャガコロッケサンドができました。とっても柔らかく、皮付きの野菜とはまったくわからないくらいおいしかったです。ブラマンジェはお米とヨーグルトの組み合わせに驚きましたが意外に美味しく、余ったご飯でのデザートなのでとっても経済的。

■第3回目「エコノミ焼き/キャロットオレンジゼリー」



キャベツの芯や外側の葉を使って料理をするのでゴミを減らす事ができる料理です！シャキシャキのキャベツに竹輪やツナなどが混ざっているので、色々な味がしてとても美味しく楽しい味でした。キャロットオレンジゼリーは、ニンジンミキサーにかけているのであまり味は目立たず、ニンジン嫌いの子でも美味しく食べられました。



とっても美味しく作る事ができました！

●アンケート感想

・今回のような子供の料理教室は楽しく料理しながら実際に出るごみの量や片付け方からエコを学べて良かったです。

・難しそうでしたが作ってみたら意外と簡単でした。布を使ってお皿をふくということを知っていましたが、実行できていないので、やってみようと思いました。

・エコロジーに関する関心が高まってはおりますが、具体的には、今、自分が何が出来るかということ学ぶ機会が少ないので、今回の講座は、大変役に立ちました。小さな積み重ねで地球温暖化を防ぐことの大切さを感じました。

・小1の子供にはまだむずかしく、調理に熱中するだけだったが、親の意識が高まるので親子参加の意義は大きいと思う

---

**カテゴリ :** 平成19年度

**投稿日 :** 2007年09月02日

## 気象予報士から学ぼう、「ストップ!地球温暖化」

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月02日

2007年7月28日、8月7日、8月26日の3日間、環境学習講座『気象予報士から学ぼう、「ストップ!地球温暖化」』が環境情報活動センターにて行われました。

各回、NPO法人気象キャスターネットワークさんより気象キャスターの方をお招きし、前半は講義、後半は実験の2時間の講座を行いました。温暖化の問題を、スライドやクイズを使って楽しく学習し、その後実験で盛り上がりました。

「地球温暖化は、地球全体の大きな問題です。でもそれは、一人ひとりの意識や生活そのものとつながっていることなのです。一人の人間が出来ることは小さいけれど、集まれば大きな力になります。いつも少しでも地球のことを考えながら行動する。たったそれだけのことによって、世界は、地球は、そして私たちの未来は、確実に変わっていくのです。」講師からのそんなメッセージは、皆さんに伝わったでしょうか。

今回は保護者の方にもたくさんご同席いただきました。ご家庭でもう一度、環境のことについてお話できるといいですね。

■第1回目 講師 岩谷忠幸（日本テレビ気象キャスター）

講義 地球はなぜ暖まるのか

実験 植物の光合成実験

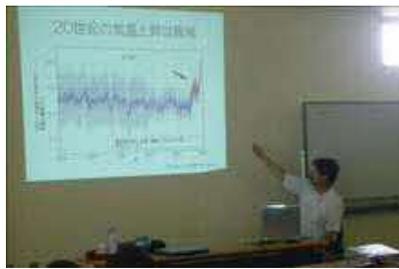


光合成の実験では食い入るように、皆真剣な眼差し！

●第2回目 講師 原田龍彦（元TBSテレビ気象キャスター）

講義 どんな影響があるのか

実験 雲画像地球儀作り



地球儀作りで、もくもくと作業していく子供達。とても真剣でした。



雲を作る実験もしました。水を入れたペットボトルの空気を加圧すると...雲の完成です！最後にペットボトルで作るトルネードを見せて頂きました。

●第3回目 講師 勝又幸恵 (NHK静岡気象キャスター)

講義 どうしたら温暖化を防げるか

実験 手回し発電機を使って電気をつくる



クイズも交えての楽しい授業です。難しい問題にもスラスラ答える子供たちに、未来は明るいと関心！



写真からキッチンの無駄を見つけます。



こんなにみつかりました！！

次は手回し発電機を回して電気をつける実験です。



最後にみんなで省エネチェック！皆さん、高得点でした。日頃から省エネを心がけているようですね。

---

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月02日

## さき布からぞうりをつくろう

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年09月05日

平成19年6月23日、環境リサイクル講座「さき布からぞうりをつくろう」が実施されました。余った布や、もう着なくなった服を裂いて、ぞうりに編み直そうというこの講座には、ブームもあってか、420名のご応募をいただきました。急ぎょ開講日を1日増やして対応致しましたが、もれてしまった方々にはこの場を借りてお詫びいたします。

新宿環境リサイクル活動の会から4人の講師を迎え、和やかに会は始まりました。新宿環境リサイクル活動の会は、この他にも傘からリュックを作ったり、生ゴミからミミズを利用した堆肥を作ったり、廃油から石けんを作ったりと、多彩な活動をされているリサイクルのプロ集団です。



まずは、ひと通り講師から解説が。その後、各自用意した幅4cm、長さ1.5m程の裂いた布を、足の指にかけた荷造り用のヒモに編みこんでいきます。講師は受講者の中に入り、丁寧に指導にあたります。



手と足で、力強く編みこんでいきます。鼻緒をつくるのに必要な「燃(よ)る」という作業は、人により得手、不得手が。経験者は手つきが違いました。





最初はとまどっていた方も、殆どが時間内に方足を作り終え、「涼しげでいい感じ」と履き心地を楽しみました。

開催にあたって、たくさんのお問合せをいただきました。中には「母のその母の代のゆかたをほどいて、タンスにしまってあるものがたくさんあります。それを是非生かしたいんです」との声もありました。「物を大切にする」という日本の古き良き文化を感じ、胸が熱くなりました。こういう気持ちがブームの下支えになっているようです。

現在、講座の受講生たちがメンバーとなってサークルをつくり、月に一度集まって楽しくぞうりを作っています。新たなメンバーを募集中、また、講師の派遣も可能です。詳しくはセンターにお問い合わせ下さい。

---

**カテゴリ :** 平成19年度

**投稿日 :** 2007年09月05日

## 山野草・秋の寄せ植え

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年10月07日

平成19年9月27日に環境情報活動センターにて、環境教養講座「山野草・秋の寄せ植え」が行われました。講師はおなじみ、園芸研究家の伊藤金美先生です。先生のお弟子さんでいらっしゃる秋草会の皆さんが助手を務めます。



受講者は、45名の応募の中から選ばれた20名。今回植え込んでいくのは、「フジバカマ」「ノギク」「リンドウ」「ヒメタデ」「ナキリスゲ」の5種です。



初めに、先生から寄せ植えの仕方についてのレクチャーが。日当たり・用土・水分・肥料等を考え、性質の同じ植物を選んで寄せ植えすること、色を調和させることなど、丁寧に解説が入ります。植物の配置の仕方にも、黄金律があるようです。次に、いよいよ実習です。山野草がもっとも引き立つ配置を考えながら植え込んでいきます。植え終わったら、土がこぼれてしまわないように針金とヒモで固定をし、上から水苔を敷き詰めます。





見事に完成させました！



最後に、講師から山野草について、その性質や管理の仕方などを教わります。聞き逃さないようメモをしていく皆さん、質問をする方も多くとても勉強熱心でした。  
アンケートから

- ・とても楽しく講義を聞き出来上りも自分ながら良く出来たと思育てるのが楽しみです。
- ・山野草の生き方、生かし方とても勉強になりました。
- ・とても良く勉強させてもらいました。又、参加できる事を楽しみにしています。

---

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2007年10月07日

## ビオガーデンを設計しよう

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年10月20日

平成19年10月13日土曜日、環境講座「ビオガーデンを設計しよう～鳥や虫たちが集う庭・ベランダづくりの極意～」が開催されました。講師は、NPO法人生態教育センター副理事長の藤本和典先生です。



左) 本日のテキスト2冊

右) 藤本先生が手がけた書籍

楽しいスライドから講座は始まりました。ヒヨドリのフンを洗ってみると、ムベの木の種が出てきたり、オニヤンマが銀座の地下鉄入口で休憩していたり。植物・蝶・鳥などたくさんスライドとともに、解説がなされます。会場からは、へーという驚きの声や笑い声が絶えません。



先生が一貫しておっしゃることは、一つには、日本の、その土地の原種・在来種を植えることです。園芸品種は実を付けない、花粉や蜜が少ないなど、生き物が利用しづらく、また、外来種の中にはたくさん実をつけるものがありますが、繁殖力の強い種子が周辺の自然に広がった場合、地域の自然を塗り変えてしまう可能性があります。

もう一つが、「食う・食われるの関係」、植物と生き物がお互いに支え合い循環している生態系のしくみを考慮した庭づくりをすることです。例えば、水辺の蚊の発生が心配なのであれば、蚊の卵を食べてくれるメダカを飼うこと、毛虫の発生が心配であれば庭に鳥を呼ぶこと。生態系のしくみを上手に生かすことにより、農薬などの化学薬品を使わずに安全な庭が出来ます。

次に、実際に「理想の庭」を設計してみます。生態系を考慮しながら、好みの植物の写真を選び、その植物に集まる生き物の写真とともに、図に貼りつけていきます。みなさん、首をひねったり、テキストをながめたりしながらも、楽しそうな表情です。



講師の解説が入ります。

最後に、鳥たちがついでにくる落花生のリースを作ります。



庭に草花の種を蒔こう、木を植えようと考えたとき、誰もが美しく育てたいと願い、土や肥料、水やりに精を出します。その気持ちを生態系にまで広げ「生きものたちに役立つように」という視点も持ちませんか、という提案が「ビオガーデン」です。

～アンケートより抜粋～

- ・ 林試の森の近くに引っ越して都会に多くの生き物がいることが分かり、色々試すための知識の糸口がわかった
- ・ 実践的なことを分かりやすい説明で教えて頂きよかったです。
- ・ 自宅近くでは見かけられない鳥、チョウなど写真を見せていただきこれを機会にベランダでビオガーデンを楽しみたいと思いました。
- ・ とてもわかりやすかったです。今迄の知っていたつもりが、ちがう視点から見る事が出来てとても良かったです

---

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2007年10月20日

## どんぐり図鑑をつくろう

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年10月27日

平成19年10月20日(土)、「秋の木の実を使ったネイチャークラフト～どんぐり図鑑をつくろう～」が開催されました。広報で告知されてから応募締め切りまで時間が短かったせいか、参加者はお子さん7名と保護者の方たちと、いつも大人気のどんぐりの講座にしては比較的少人数で和気藹々と行われました。

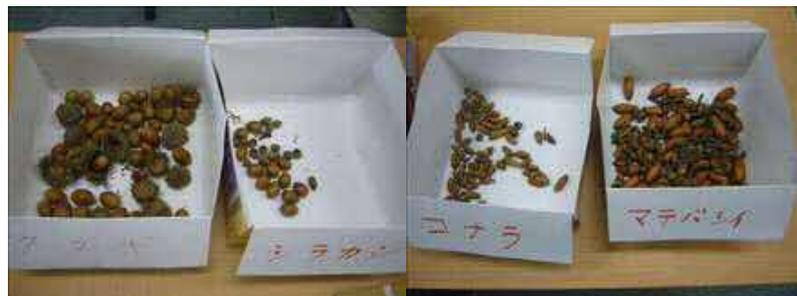


始めにグルーガンの使い方の注意や亀田先生の説明を伺います。今日のどんぐりはみんな近くの林試の森公園で拾われたものなんだそうです。

さて、いよいよ図鑑の作成開始。7つの種類に分けられたどんぐりを選んで、台紙にどんなふうに並べようか？よく考えます。



どんぐりってこんなにいっぱい種類があったの？意外と形が違ってたねー、などという声もあがりました。みなさんはどんぐりにどんな種類があるか、知ってますか？



お父さん、お母さんもお子さんたちと一緒に、夢中になってどんぐりを貼り付けたり、絵を描いたり。お子さんの発想の豊かさには感心しきりです。



難しいところは手伝ってもらいながら、それぞれの個性あふれる素敵な図鑑が出来ました。



こんど公園や山でどんぐりを見つけたら、この図鑑で調べてみてくださいね。

---

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2007年10月27日

## 初めて学ぶ「化学物質」

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年11月05日

平成19年10月30日(火)、『環境学習講座：初めて学ぶ「化学物質」』が開催されました。講師には化学物質アドバイザーの小野研二さんをお招きしました。



私たちは様々な化学物質に囲まれて生活しています。排気ガスやアスベストなどによる健康被害のニュースを目にするたび、少々不安になってきます。しかし、都市で生活する者にとって、化学物質とまったく関わらずに生活していくのは困難です。正しい知識を身に付け、身の回りの化学物質と上手につき合っていくことが大切です。

「～暮らしの中の化学物質と上手につきあう方法～」という副題がつけられたこの日の講義では、衣・食・住にわけて、化学物質の現状と、私たちができる対策についてお話いただきました。



参加者の関心が一番高かったのは、やはり“食”の分野でした。農薬や食品添加物、あるいはプラスチックの包装容器などについての説明に、参加者は熱心に聞き入っていました。

私たちは半分以上を外国の食品に頼っていること。その食品にしても、農薬や食品添加物、更には殺虫剤等の私たちにとって益とはならないものが含まれていること。また、食品と接触するプラスチックの包装容器などについての説明に、参加者は熱心に聞き入っていました。

私たちが知ることが出来るのは商品の品質表示。最近、食品の不祥事が多い世の中ですが、適切な使用方法を守り、定められた方法で廃棄し、必要以上に使わない、買わないようにしたいものです。

講義の後の質疑応答の時間には、参加者から様々な質問や意見が飛び出しました。ダイオキシンなど、話題になることは多いけれど、一般には分かりづらい化学物質に対して、正しく理解を深めて対応していこうとする姿勢が感じられました。

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年11月05日



## 2008年どんぐりカレンダーをつくろう！

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月06日

平成19年11月24日(土)、環境情報活動センターにて環境講座「2008年どんぐりカレンダーをつくろう！」が開催されました。

昨年は画鋏で差し込む形でしたが、今年はどんぐりをフックに掛ける事ができるバージョンアップしたカレンダーをつくりました。



まずフックになるヨーオレという金具をボードに差し込みます。しかし少し力が必要で、手伝ってくれたお母さんたちは苦勞したようです。次にどんぐりにヒートンという金具を差し込みます。ポンドでくっつけていく子供達は、「手がベトベトだよー」と楽しそうな声をあげていました。



金具の作業が終わった後は、どんぐりや木に数字を書いて完成です。



個性あふれるいろいろなカレンダーができました。  
少し大変でしたが、皆頑張って上手にできましたよ！

---

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2007年12月06日

## クネイチャークラフトで迎えるクリスマス～自然素材のリース～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月24日

2007年12月16日（日）、午前中のツリーに続いて、午後の部はリースです。題して、「ネイチャークラフトで迎えるクリスマス～自然素材のリース～」のスタートです。



最初に亀田先生から自然素材の説明を聞きます。松ぼっくりや杉の葉などたくさんの自然素材を提供して頂きました。



まずは自然素材を選びます。余り見たことが無い素材に不思議そうな顔をする子もいましたが、たくさんの自然素材とビーズを使いこなし素敵なリースを完成させました！





松ぼっくりに色を塗ってみたり、キラキラのモールで形を作ったり様々なアイディアがありました。  
是非、お家で飾ってくださいね！

---

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2007年12月24日

## ネイチャークラフトで迎えるクリスマス～松ぼっくりツリー～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年12月24日

2007年12月16日（日）の午前に品川区環境情報活動センターにて環境講座「ネイチャークラフトで迎えるクリスマス～松ぼっくりツリー～」が開催されました。今回の講座も、とても多くのご応募を頂き、抽選の結果見事当選された20名が参加されました。



今年も亀田先生におこし頂き、松ぼっくりについてのお話をいただきました。今回は外国原産のめずらしい松ぼっくりも見せて頂きました。普段はこんなに大きい松ぼっくりは見かけないので驚かれる方が多かったです。今回はありませんでしたがこれよりもさらに大きい松ぼっくりもあるそうです。



説明のあとは早速、ツリーの飾りつけです。たくさんある飾りからキラキラしたビーズや玉など自分の好きな飾りを選びます。



選んだらボンドやグルーガンでツリーに飾り付けをしていきます。グルーガンを使うのが初めての方が多く苦戦しましたが、すぐに使い方を覚えてテキパキと完成させました！



たくさんの可愛いツリーができました！！  
どれもキラキラしてて凄く素敵です。

---

カテゴリ：平成19年度

## 地球温暖化を考える～低炭素社会への道～

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年01月22日



1月13日、今年最初の環境講座となる『地球温暖化を考える～低炭素社会への道～』が開催されました。講師には、放送大学から鈴木基之教授をお迎えしました。著名な先生ということもあり、会場となったセミナールームが満杯になるほどの多くの受講者にご来場いただきました。



一時間半の講義の中で、科学的なデータに基づいた温暖化の現状と、未来予測についてお話しいただきました。最新のコンピュータがはじき出した未来予測の結果からは、温暖化問題の深刻さを否が応でも思い知らされました。特に、今後の地球全体の温度分布をシュミレーションした映像はとても衝撃的なもので、地図上の熱帯や亜熱帯を示す地域が見る見るうちに広がっていく様子には、恐怖すら覚えました。

鈴木先生は、今後の私たちの経済活動や暮らしぶりによって、地球温暖化にはいくつかのシナリオが残されていることもお話しくださいました。温暖化の大きな原因とされている二酸化炭素の排出には、今後私たちがどのような社会を作っていくかが大きく影響してきます。気候が激しく変動し、海面上昇や異常気象などの危機に直面するのか。それとも致命的な事態には陥らずに、気候は安定化へ向かっていくのか。その行方は、地球に暮らす私たち一人ひとりにかかっているようです。

今回の講座は参加者の意識もとても高く、質疑応答の時間には鋭い質問がいくつも飛び出しました。年齢層は高めでしたが、放送大学の学生さんも何名かおり、大人になってからも学び続けようというみなさん意欲に感服いたしました。

☆この講座については「おしえて、さかい先生！」にもレポートがのっています！

[http://shinagawa-eco.jp/mt\\_qa/](http://shinagawa-eco.jp/mt_qa/)

---

**カテゴリ :** 平成19年度

**投稿日 :** 2008年01月22日

## 空と地球環境

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月22日

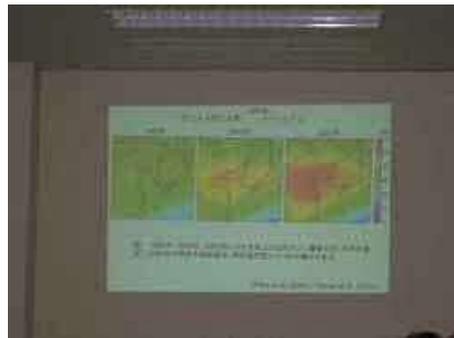
2008年1月26日（土）に品川区環境情報活動センターにて環境講座「空と地球環境」が開催されました。講師に大気科学の専門家、大喜多敏一先生とケーブルテレビしながわの松元アナウンサーをお迎えして、対談形式で行われました。



大喜多先生のお話少し難しい所があったり、素朴な疑問が浮かぶような部分があると、パッと松元アナウンサーが私たちの代わりに聞いてくださり、とてもわかりやすい講義となりました。

「空」がメインのテーマではありましたが、内容はもりだくさん。地球レベルでの大気状況と、それに関わる水不足や砂漠化の問題など、講義内容は多岐にわたりました。やはり全ての環境問題は絡み合っているの、広い視野を持つことが大切なようです。

高度経済成長期以降、大気汚染の問題はたびたび話題になってきました。環境技術の進歩により、二酸化硫黄濃度などはだんだん下がってきているそうです。最近ニュースになることの多い中国の大気汚染は、自動車が一つのポイントになっているそうです。この点については力を入れて講義してくださいました。日本の環境に良くない古い車が安く中国に輸出されるために、中国ではたくさん車に乗る人が増えます。そのために地表付近のオゾンが増加しています。



図を使って、オゾンは2020年（予測）にはこんなに増えるのだとお話し頂きました。オゾンと言ってもオゾンには悪いオゾンと良いオゾンがあるのをご存知ですか？オゾンが悪いと話す先生に、松元アナウンサーの「オゾンは良いものなんじゃないんですか？上空のオゾン層がなくなると大変だという話がありましたが」という質問が。「地表付近のオゾンには害があるんだよ。だから悪いオゾンの元のNOxと炭化水素は出さないようにする事が大事」と答えていただきました。しかし、今も地表付近のオゾンは増え続けています。

また、温暖化によっているんな所でお米やミカンやリンゴがおいしくなってしまう、北海道でゴキブリが増えるなど、面白い話もしていただきました。

まとめとして「日本だけでは駄目、中国もなんとかしなきゃいけない。世界全体

にエコをひろめなくちゃいけないんだよ」とお話しくださいました。

最後の質問タイムではたくさんの方が発言してくださりととても充実した内容でした。途中行った環境クイズテストでは、100点中80点を超える人がちらほら！さすがです。

---

**カテゴリ:** 平成19年度

**投稿日:** 2008年02月22日

## 古帯で「おひなさま」をつくろう

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年02月28日

2008年2月23日（土）に品川区環境情報活動センターにて環境講座「古帯で『おひなさま』をつくろう」が開催されました。古い帯や着物を再利用したパッチワークの布を使用した可愛いおひなさまをつくります。今回、お孫さんが生まれたのでプレゼントするのにちょうど良いといった方もいらして、受講者の皆さまに大変喜んで頂けた講座になりました。



まず初めに品川区環境清掃事業部、資源循環推進課の野中さんに品川区のごみの分別やリサイクルについてお話ししていただきました。

マヨネーズの容器の捨て方は皆さんどうされていますか？そのまま捨ててしまう方、使い終わった容器は洗えばリサイクルできるのですよ。または最後のフタの方に中身が残っている部分がありますね？そこをチョキンッとハサミで切ってください。そうすれば上の綺麗な部分はリサイクルに出せます！と、いろいろリサイクルのコツを習いながら燃えないゴミを減らさなくてはいけないのだよ、と教えて頂きました。



そしておひなさま作りに入ります。今年も講師に竹中信子先生に来て頂き可愛いおひなさまをつくりました。





今回、パッチワークにしてあるキットを使います。真剣にチクチク縫う姿はプロのように素早くとても手馴れた手つきの方が多くて驚きました。



立て方も綺麗にみせましょう！このおひなさまには前後はありませんので好き方の柄を見ながら折る事ができます。ペタンコになるので収納がとても便利です。



綺麗なおひなさまが完成しました。いらなくなった帯や着物がこんなに素敵に生まれ変わりましたよ！先生はこのアイデアをシャンプーの詰め替え用の袋を見て思いついたそうです。意外な所からの発見が環境に役立つなんてさらに凄いです。そして、この日は風が大変強く、空が濁ったような色をしていました。これも環境問題のせいだね、と先生の言葉にうんうんと心配そうに外を見る皆さん。さらに環境問題について実感した1日となりました。

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2008年02月28日

## 飲める水、泳げる海のある暮らし

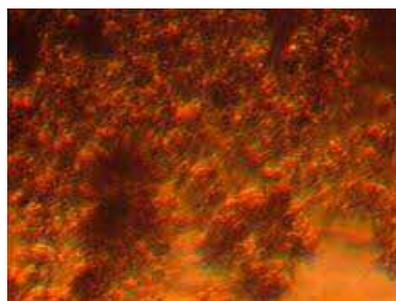
カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年03月19日

平成20年3月8日（土）に環境情報活動センターにて環境講座「飲める水、泳げる海のある暮らし」が開催されました。講師には下水処理コンサルタントの諸頭達夫さんと岡本正義さんにお越し頂き、下水道についてお話して頂きました。



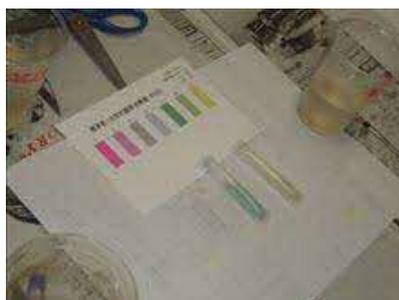
わかりやすく図や映像を使って下水道が油だらけになってしまっている事や改善するためにオイルトラップを取り付けよう！など今、私たちがもっとも気にしなくてはならない環境問題について教えて頂きました。



途中、下水道の水再生センターの中の反応槽の中にある微生物を顕微鏡で見せて頂きました。右の写真は顕微鏡で見た微生物です。この小さな丸い微生物達は円を描くようにくるくる回りながらいろんな所を移動していました。子供達は「動いてるよ！」と興味心身に覗いていました！この微生物が多くいるほど良い水ができるそうです。



次は実験です！  
芝浦上水所のお水で実験しました。



このお水は綺麗な水かな？と「上澄み液」と「処理後の水」をパックテストで比べてみました。緑が上澄み液、黄色が処理後の水となっております。あまりよろしくはないようです。そして匂いがとてもキツイです。こんな風に私たちの生活はお水を汚いものにしていつているのだな、と改めて実感いたしました。

実験は先生に質問をしながら和やかな雰囲気で行われましたが、ぱっと受講者さまの中から「水道水も調べたい」とのお声が。この日はケーブルテレビの撮影も入りカメラマンの方から「何か問題でもあったら明日の朝からすぐ取材に来ますからね」なんて笑いながら言われましたが、...区役所の水道水に何かあるなんて絶対ありません！！という事で少し怯えながらも区役所の水道水も実験をする事に。さてさて、結果は？



見事綺麗なピンクになりました！

先生の「大丈夫です」と嬉しそうな声に受講者の方々も「おお～！」「良かった」と安心したようです。スタッフも安心いたしました。

そして最後に先生からお水について「捨てる水ではなくしっかり使っていこう。温暖化もこういう所から来ているのだから」と水の無駄遣いを無くす事を心がけなければいけないと教えて頂きました。

受講者の皆様は実験がとても気に入ってくれたようで、楽しかったという声もでした。

楽しく、環境の事を考えられる講座になりました。

---

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年03月19日



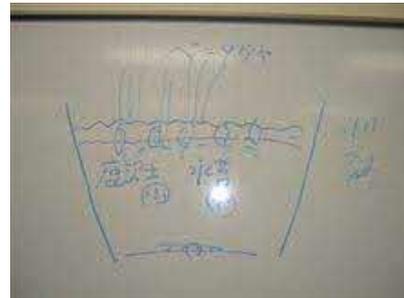
## 春の寄せ植え

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2008年03月20日

平成20年3月13日（木）に環境情報活動センターにて環境講座「春の寄せ植え」が開催されました。毎年大人気の「寄せ植え」ですが、今回は応募者数150人のたくさんの応募を頂戴しました。定員20名のため、たくさんの方が参加できなくてとても残念です。外れてしまった方々、本当に申し訳ありません。

今回は夏に咲くサギ草と紅子ガヤの寄せ植えという事で、お花や草ではなく種から飢えました。そのため伊藤金美先生から手入れのお話だけではなく最初の植え方のコツや育て方のコツなど最初の段階から教わる事ができました。そして一番重要なのが水やりだそうです。お水はやりすぎても乾いてしまってもいけない、1回でも水やりを忘れるとすぐにダメになってしまうから気をつけなくちゃいけないとお話してくださいました。毎日植物に手をかけ自然に親しむのが大事という事ですね。



寄せ植え実習には伊藤先生が指導している秋草会のメンバーの方がアシスタントについてくださりわからない所も素早く教えてくださいました。



こちらが完成した作品です！

「うまく咲きますように願いながら植えたよ」と、笑顔で完成させました。  
これからどんな風に咲くのか楽しみですね。



そして先生が展示用にお持ちいただいた花のお話も聞かせて頂きました。どれも綺麗で素敵なお花で、中でも写真右の紫の花は同じ花なのに何百と違う形違う色の花が咲くそうです。不思議なお花でした。

最後に質問タイムです。いろいろ細かい疑問なども全部お答え頂きとてもわかりやすくアットホームな講座になりました。

---

**カテゴリ：**平成19年度

**投稿日：**2008年03月20日